

## 第4回（通算108回）理事会・拡大執行委員会 議事録

- 1 開催年月日及び時刻 2025年12月2日（水）9:00-13:00
- 2 開催場所 東京都文京区本郷七丁目2番2号 当法人事務所会議室
- 3 出席理事数（総理事数20名） 山中 宏二（理事長／人材推薦委員会委員長／NSR 運営委員会委員長）、尾藤 晴彦（副理事長／国際連携委員会委員長）、渡部 文子（副理事長）、花川 隆（総務理事／倫理委員会委員長）、村山 正宜（会計理事）、池田（村松） 里衣子（神経科学ニュース編集委員会委員長）、大木 研一、大隅 典子、大塚 稔久、笠井 清登（学術多様性委員会委員長）、河崎 洋志、久保 郁、黒田 公美、竹本 さやか（ダイバーシティ対応委員会委員長）、筒井 健一郎（理事長補佐）、林 朗子（アウトリーチ委員会委員長）、宮田 麻理子  
(出席理事数：17名、全理事はWeb会議システムにより出席)
- 4 議長 山中 宏二
- 5 出席監事名（総監事数2名） 後藤 由紀、富田 泰輔（出席監事数：2名）
- 6 委員長等出席者 國松 淳（理事長補佐／JNS 創立50周年記念行事WG委員長）、吉本潤一郎（理事長補佐／情報基盤整備委員会委員長）、池田和隆（大会委員会委員長）、宇賀 貴紀（動物実験委員会委員長）、奥村 哲（プレインビー委員会委員長）、上口 裕之（第49回大会長）、合田 裕紀子（第51回大会長）、坂口 秀哉（産学連携推進委員会委員長）、佐々木 拓哉（ホームページ委員会委員長）、中島 欽一（アルトマン賞選考委員会委員長）、林 康紀（脳科学辞典編集委員会委員長）、藤山 文乃（第48回大会長）、松田 哲也（アドボカシー委員会委員長）
- 7 事務局等出席者 江口 麻耶、窪寺 明子、三瓶 あゆ子、地主 志保、吉田 優子
- 8 欠席者等 岡本 仁（理事）、田中 謙二（理事）、柳澤 正史（理事）、北城 圭一（利益相反委員会委員長）、平井 宏和（第50回大会長）、Thomas J. McHugh（NSR 編集委員会委員長）、山末 英典（奨励賞選考委員会委員長）、和氣 弘明（将来計画委員会委員長）
- 9 報告事項
  - 第1号報告 前回（第107回）理事会議事録（英語版）の確認
  - 第2号報告 委員会名簿の確認
  - 第3号報告 総務報告
  - 第4号報告 第48回大会（2025年）終了報告
  - 第5号報告 NEURO2026（第49回大会）準備報告
  - 第6号報告 第50回大会（2027年）準備報告
  - 第7号報告 Neuroscience Research 報告
  - 第8号報告 NSR 次期編集主幹
  - 第9号報告 JNS 創立50周年記念行事WG 終了報告

- 第 10 号報告 アジアオセアニア神経科学連合 (FAONS) 報告
- 第 11 号報告 学術ドメイン未登録者への対応とドメイン構成比
- 第 12 号報告 評議員選挙 中間報告

#### 10 審議事項

- 第 1 号議案 「委員会に関する細則」の制定について
- 第 2 号議案 奨励賞規程改訂
- 第 3 号議案 ニューロナビゲータ制度運用改正について
- 第 4 号議案 第 52 回大会 (2029 年) の会場
- 第 5 号議案 会員種別の整理
- 第 6 号議案 年会費の振込票 (紙) の郵送廃止
- 第 7 号議案 就業規則の改訂

#### 11 各委員会・WG の活動報告

- 第 1 号報告 奨励賞選考委員会報告
- 第 2 号報告 アルトマン賞選考委員会報告
- 第 3 号報告 人材推薦委員会報告
- 第 4 号報告 将来計画委員会報告
- 第 5 号報告 大会委員会報告
- 第 6 号報告 国際連携委員会報告
- 第 7 号報告 国際連携委員会 日中韓 WG 報告
- 第 8 号報告 情報基盤整備委員会報告
- 第 9 号報告 神経科学ニュース編集委員会報告
- 第 10 号報告 ホームページ委員会報告
- 第 11 号報告 アウトリーチ委員会報告
- 第 12 号報告 産学連携推進委員会報告
- 第 13 号報告 アドボカシー委員会報告
- 第 14 号報告 利益相反委員会報告
- 第 15 号報告 脳科学辞典編集委員会報告
- 第 16 号報告 学術多様性委員会報告
- 第 17 号報告 ダイバーシティ対応委員会報告
- 第 18 号報告 倫理委員会報告
- 第 19 号報告 動物実験委員会報告
- 第 20 号報告 ブレインビー委員会報告
- 第 21 号報告 生物科学学会連合担当委員会報告
- 第 22 号報告 脳科学関連学会連合担当委員会報告

#### 12 議事の経過の要領及び結果

代表理事山中宏二は、定刻に議長席につき、Web 回線及び Web 会議用装置からなる Web 会議システムを用いて本理事会を開催し、開会を宣し、上記のとおり定足数にたる理事の出席があったので、本理事会は適法に成立した旨を述べた。また、WEB 会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に

伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態であることを確認し、議案の審議に入った。

## 【報告事項】

### 第1号報告 前回（第107回）理事会議事録（英語版）の確認

山中宏二理事長から、前回の理事会議事録の英語版について、何か修正希望があれば12月10日までに事務局に連絡をするよう要請があった。特にない場合にはこのままホームページに掲載予定であることが説明された。

### 第2号報告 委員会名簿の確認

山中宏二理事長から、6月に開催された臨時理事会以降に追加や変更のあった委員会委員一覧が示された。特に異議なく承認された。

### 第3号報告 総務報告

花川隆総務理事から、会員構成や会員数の推移、協賛後援名義に関する報告があった。会員数は過去最大に増加しているが、会員種別のうち正会員だけを見ると減少傾向であることが報告された。会員種別については、後ほど審議事項として検討予定である旨が説明された。

### 第4号報告 第48回大会（2025年）終了報告

藤山文乃大会長より、第48回大会（2025年新潟）の終了報告があった。子育て支援や50周年記念イベントの支援を行ったことや、理事や委員長、関係者への感謝が述べられた。参加者アンケートの結果も時間のある時に確認して欲しいとの言及があった。

### 第5号報告 NEURO2026（第49回大会）準備報告

上口裕之大会長から、NEURO2026（第49回日本神経科学大会、第69回日本神経化学大会、第36回日本神経回路学会大会の合同大会）の準備状況が報告された。異分野の研究者の参加を促す新たな試みとして、初回参加者のための1日無料パスを新設した等の報告があった。

### 第6号報告 第50回大会（2027年）準備報告

平井宏和大会長は欠席により不在であったため、代わって渡部文子プログラム委員長から50回大会（2027年幕張）の準備報告が行われた。実行委員長、プログラム委員長が決定した旨の報告があった。今後、プレナリー講演や特別講演の講演者の選定等を行う予定であることが述べられた。

### 第7号報告 Neuroscience Research 報告

Thomas J. McHugh 編集主幹は欠席により不在であったため、代わって渡部副編集主幹から2025年のNSR委員会の活動報告がなされた。今後の活動については通常の編集業務に加え、来年のNSR論文賞の選出および授賞式受賞講演の実施、NSRの広報活動（Editorや理事の先生方の講演発表時にNSR広告スライドを表示、NEURO2026でのブースなど）の計画が示された。山中理事長より、2027年以降のElsevierとの契約を見据え、会員への総説を含む投稿の呼びかけなど、学会誌の支え方について提言がなされた。また、学会誌の方向性について、各学会の枠を超えた議論の必要性も示唆された。

### 第8号報告 NSR次期編集主幹

山中宏二理事長より、現在の編集主幹の任期は本来2025年12月末までであったが、エルゼビアとの契約期間にあわせて2026年末まで延長中であり、現在、それ以降の編集主幹について、エルゼビ

アとの契約更改とあわせて NSR 運営委員会で検討中である旨の報告があった。

#### 第 9 号報告 JNS 創立 50 周年記念行事 WG 終了報告

國松淳委員長より、JNS 創立 50 周年記念イベントの終了報告が行われた。第 48 回大会（新潟）での会員向け、科学未来館で行われた一般向け、ともに大変盛況で、成功裡に終了したとの報告があった。また、クラウドファンディングについても無事に目標額に到達したことが報告された。

#### 第 10 号報告 アジアオセアニア神経科学連合（FAONS）報告

筒井健一郎理事長補佐より FAONS の活動計画が示された。2025 年 12 月を目途に、FAONS 事務室を生理研に開設する方針と、近日中に FAONS 理事会を開催する予定が説明された。また、2026 年に開催予定の FAONS Congress（7 月香港）の準備を進めるとの方針が示された。

#### 第 11 号報告 学術ドメイン未登録者への対応とドメイン構成比

花川隆総務理事より、評議員選挙に向け、学術ドメインごとの人数配分を決めるため、ドメイン構成比を算出する必要があったが、未登録者がまだ多かったことから、前回の理事会で承認を得た方法で振り分け、会員から特にクレームもなく、全員のドメイン登録が完了したとの報告があった。

#### 第 12 号報告 評議員選挙 中間報告

山中宏二理事長から、評議員選挙の準備状況に関する報告があった。選挙に関する細則を一部改訂し、現評議員が推薦できる立候補者数を 2 名から 4 名に変更したことが報告された。また、現在、立候補受付中であるので、理事、委員長は、極力立候補するよう呼びかけが行われた。

### 【審議事項】

#### 第 1 号議案 「委員会に関する細則」の制定について

花川隆総務理事から、前回の理事会で細部の文言に関する修正提案があった「委員会に関する細則」に関し、修正が反映された案が示され、議決権の過半数を以って可決承認した。

#### 第 2 号議案 奨励賞規程改訂

奨励賞選考委員会の山末英典委員長は欠席だったため、村山正宜委員より奨励賞規程・細則の改訂に関する発議が行われた。奨励賞への応募資格に関し、現状の会員歴「通算」3 年以上を「継続」3 年以上と変更したい旨を述べ、議場に諮ったところ、原案通り議決権の過半数を以って可決承認した。募集案内についてもこれにあわせた形で付帯条件を変更した旨が説明され、特に異議なく承認された。

#### 第 3 号議案 ニューロナビゲータ制度運用改正について

アウトリーチ委員会の林（高木）朗子委員長から、ニューロナビゲータ制度の変更提案があった。現在の運用では、X の個人アカウントからハッシュタグを用いてニューロナビゲータとしての投稿をしてもらっている。審議の結果、今後はニューロナビゲータ専用公式 X アカウントを新規作成し、そこから投稿する案を、議決権の過半数を以って可決承認した。

#### 第 4 号議案 第 52 回大会（2029 年）の会場

山中宏二理事長から、第 52 回大会（2029 年）の会場の候補地に関する説明があった。現在仮予約ができていて、仙台、新潟、高松の 3 か所の詳細情報が示された。2026 年度の定時理事会（5 月開催予定）で最終決定をする予定のため、資料に目を通しておくよう要請があった。

#### 第 5 号議案 会員種別の整理

花川隆総務理事から、各種資料や会員アンケートの結果をもとに、会員種別の国内外の一本化が望ましい理由の説明が行われ、現在の海外会員制度を廃止する案が示された。議場に諮ったところ、議決権の過半数を以って可決承認した。海外にいる会員への配慮（発展途上国に居住する者への会費減免措置、留学中の学生やポスドクに対する渡航助成）の具体的な方法については、今後更に検討するものとした。

#### 第6号議案 年会費の振込票（紙）の郵送廃止

花川隆総務理事は、年会費の払込票（紙）の発送を、利用者数の減少、コスト削減、SDGsの観点等の理由から、2026年度の年会費請求から終了したい旨を述べ、議場に諮ったところ、議決権の過半数を以って可決承認した。

#### 第7号議案 就業規則の改訂

花川隆総務理事は、事務局職員向けの「就業規則」第56条（定年）について、定年退職の日を、満60歳になる月の末日から、満60歳になる年度の末日（3月31日）に改訂したい旨を述べ、改定案を議場に諮ったところ、議決権の過半数を以って可決承認した。

### 【各委員会・WGの活動報告】

#### 第1号報告 奨励賞選考委員会報告

山末英典選考委員長は欠席だったため、代理で山中宏二理事長から選考結果の報告があった。受賞候補者5名（うち女性1名）が選出されたことが述べられた。また、審査において議論された点の説明があった他、次期選考委員長には佐々木拓哉教授（東北大学）を選出したことが報告された。

#### 第2号報告 アルトマン賞選考委員会報告

中島欽一委員長から、アルトマン賞の運営に関する報告があった。第48回大会（新潟）会場にて第9回（2025年）受賞者に対し授与式と夕食会を開催したこと、現在第10回（2026年）受賞候補者を募集中であることが報告された他、今後のスケジュールなどが示された。

#### 第3号報告 人材推薦委員会報告

山中宏二委員長から、引き続き各種研究助成や賞、各種委員、学会委員等に対して会員の推薦を行ったとの報告があった。今後も随時、外部からの依頼や学会のニーズに対応して会員の推薦を行う目標が示された。

#### 第4号報告 将来計画委員会報告

和氣弘明委員長は欠席だったため、山中宏二理事長から代理で活動目標等が説明された。学術会議「未来の学術振興構想の策定に向けた学術の中長期研究戦略」に「「脳」宇宙解明のための国際拠点・「脳」」の改訂版を提案するなどの活動を行ったことが報告された他、NEURO2026（第49回大会）においてランチョン大討論会を実施する計画が示された。

#### 第5号報告 大会委員会報告

池田和隆委員長より、大会委員会に附議されていたいくつかの事項について、事前アンケートやWeb会議などで検討し、同委員会としての見解を上申した旨の報告があった。中でも大会での重複発表については「全く同じ抄録の発表は不可」としたとの説明があり、これについて議場の意見を募ったところ、特に異議はなかった。NEURO2026（第49回大会）では、他学会等で発表された抄録と同一内容での発表も受理するが、他学会や出版社等の著作権を侵害していないことを条件としたことが

報告された。

#### 第6号報告 国際連携委員会報告

尾藤晴彦委員長から、国際連携委員会の活動概要の説明が行われた。他国の組織・学会との連携に基づく活動ならびに本学会の年次大会における海外の財団からの助成の状況が報告された。今後いくつかの組織との覚書が更新時期を迎えるため、引き続き国際連携を促進するような内容で協定を結ぶとの目標が示された。他に、SfN や FENS における交流会開催の計画が述べられた。

#### 第7号報告 国際連携委員会 日中韓 WG 報告

尾藤晴彦委員長より、CJK 国際会議のこれまでの実施状況と今後の予定が報告された。3か国の持ち回りの2巡目として、第4回 CJK 国際会議(2027年)は日本での開催となるため、第49回大会(幕張)の平井宏和大会長とも連携しながら今後準備を進めていく旨の説明があった。

#### 第8号報告 情報基盤整備委員会報告

吉本潤一郎委員長より、Slack で学会の公式ワークスペースの利用環境が整ったとの報告があった。また、学会ホームページ等の保守・管理業務を委託している業者との契約を更新し、月額が増額になったとの説明があった。他に、今後の運用コスト低減やセキュリティ向上のため、1~2年のうちに学会ホームページのリニューアルを実施する方針が示された。

#### 第9号報告 神経科学ニュース編集委員会報告

村松里衣子委員長から、安定的に編集・発行作業を続けている旨の報告が行われた。また、編集委員会の会議では、これまで継続審議となっていた HTML 版との同時発行について、コストや掲載場所等の調査を進めたところ、現実的に難しいことがわかったため、見送りとすることを結論付けたとの報告があった。ホームページ委員会とは今後も依頼原稿の共有などにより連携を継続していく予定が示された。

#### 第10号報告 ホームページ委員会報告

佐々木拓哉委員長から、日々継続してホームページ更新を行っているとの報告に加え、セキュリティや維持費の問題から、ホームページのリニューアルを検討している旨の説明があった。議場からは、トップページに FAQ の項目をわかりやすく表示して欲しいとの要望があり、今後対応するものとした。

#### 第11号報告 アウトリーチ委員会報告

林朗子委員長より、市民公開講座「脳科学の達人」10周年記念の書籍化が進行中であること、「脳科学の達人 2025」のアーカイブ動画を YouTube にて公開準備中であること、「脳科学の達人 2026」の内容について計画・準備中であることなどが報告された。

#### 第12号報告 産学連携推進委員会報告

坂口秀哉委員長より、第48回(2025年新潟)大会で実施した産学連携シンポジウムについて紹介があった。また、NEURO2026 で開催予定の産学連携シンポジウムは神経化学会との合同企画として立案中であることが報告された。他に、シンポジウムの動画を YouTube で公開する際に演者の方との間で結んでいた著作権譲渡契約書について、演者側の要望や指摘にあわせて改訂を行った旨の報告があった。

#### 第13号報告 アドボカシー委員会報告

アドボカシー委員会の松田哲也委員長から、関係省庁・AMED 等と継続的に意見交換を行っている

との報告が行われた。今後とも引き続き各方面と連携しながら、省庁関連事業の内容に対してアカデミアからの意見を反映できるよう努めるとの方針が述べられた。

第 14 号報告 利益相反委員会報告

北城主一委員長は欠席だったため、山中宏二理事長から代理で活動目標等が説明された。学会・大会の、役員・関係者の利益相反を確認することが委員会のミッションであるため、自己申告への協力が要請された。

第 15 号報告 脳科学辞典編集委員会報告

林康紀委員長は一時退席中のため不在であったので、山中宏二理事長から代理で報告があった。継続して編集を進めているが、今後一部の編集委員の交代を検討中であるとの補足説明があった。

第 16 号報告 学術多様性委員会報告

笠井清登委員長より、NEURO2026 にて神経化学会と合同で企画している基礎・臨床連携シンポジウムの紹介が行われた。テーマは脳腫瘍を予定しているとの説明があった。

第 17 号報告 ダイバーシティ対応委員会報告

竹本さやか委員長から、男女共同参画学協会連絡会を通じた他学会との連携を継続する他、年次大会でのランチタイムイベントについても企画中である旨の報告があった。

第 18 号報告 倫理委員会報告

花川隆委員長より、前期行った「ヒト脳機能の非侵襲的研究の倫理問題等に関する指針」から「ヒトを対象とした脳・神経科学研究を倫理的に計画・実施するための指針」への改訂を踏まえ、次期の改訂の方針を決定するとの計画が示された。

第 19 号報告 動物実験委員会報告

宇賀貴紀委員長から、本委員会は動物実験に関する情報収集をミッションとしている旨の説明があった。動愛法の改正に向け、引き続き NPO 法人動物実験関係者連絡協議会や関係省庁と密に連携しながら対応していく方針が示された。

第 20 号報告 ブレインビー委員会報告

奥村哲委員長から、2025 年の第 12 回脳科学オリンピックの結果が報告された。年々、平均点や予選通過に必要な得点が上がっているとの説明があった。上位入賞者を第 48 回大会（新潟）に招き、表彰式を行った他、新潟大学脳科学研究所の見学会を実施したとの報告があった。第 13 回大会も引き続き充実させるべく準備を進めるとの目標が示された。議場からは、過去の入賞者が本学会で活躍している様子がわかるとよいのではとの意見が出た。

第 21 号報告 生物科学学会連合担当委員会報告

富田泰輔委員長より、日本学術会議から発出された「高等学校の生物教育における重要用語の選定について」に基づいた用語集解説の作成を行ったとの活動報告があった。本学会に依頼のあった 44 語のうち、半数程度は既に脳科学辞典に収録されている用語であったため、その内容を踏まえて下書きを作成したことが報告された。今後委員会にて確認しながら作業を進めるとの方針が示された。

第 22 号報告 脳科学関連学会連合担当委員会報告

脳科学関連学会連合担当委員会の山中宏二委員長より、脳科連の活動状況に関する報告が行われた。今後も脳科連と連携しつつ、問題に対処していく目標が示された。

Web 会議システムを使用した当該理事会は終始異状なく、議長は、以上をもって本日の議事が終了した旨を述べ閉会を宣した。

上記決議を明確にするため、本議事録を作成し、定款第 41 条の規定に基づき出席理事長及び監事が次に記名押印する。

令和 7 年 月 日

一般社団法人日本神経科学学会 理事会

理事長（代表理事） 山中 宏二 （法人実印）

監事 後藤 由紀 （認印）

# 日本神経科学学会会員構成

( )内は2025.4.01-2025.9.30入会者

2025年10月1日

会員種別 学術ドメイン	正会員		海外正会員		若手会員	海外若手	学生会員		海外学生会員		シニア会員
	会員数	入会者数	会員数	入会者数	会員数	会員数	会員数	入会者数	会員数	入会者数	会員数
A Basic Neuroscience 基礎神経科学	2,066	(26)	369	(26)	414	103	526	(82)	138	(22)	84
B Systems & Information Neuroscience システム・情報神経科学	1,017	(14)	136	(4)	212	65	208	(33)	40	(6)	41
C Clinical & Pathological Neuroscience 臨床・病態神経科学	720	(15)	70	(3)	90	19	85	(15)	42	(2)	29
D ドメイン不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3,803	(55)	575	(33)	716	187	819	(130)	220	(30)	154

その他の会員	会員数	入会者数
賛助会員(1) 複数申込 ※	1	(0)
賛助会員(2) 1口(10万円)	12	(1)
名誉会員	20	(0)

※成茂科学 10口

<b>全会員数</b>	<b>6,507</b>
-------------	--------------

2025.4.1~2025.9.30

■届出退会: 170名

学術ドメイン別	正会員	海外正会員	若手会員	海外若手	学生会員	海外学生	シニア	小計
A Basic Neuroscience 基礎神経科学	25	2	16	5	9	0	2	59
B Systems & Information Neuroscience システム・情報神経科学	7	2	10	2	3	1	0	25
C Clinical & Pathological Neuroscience 臨床・病態神経科学	11	0	5	0	3	0	0	19
D ドメイン不明	33	3	21	2	2	0	6	67
合計	76	7	52	9	17	1	8	170

(退会理由) 卒業:59名、研究分野・職種変更:38名、定年退職:21名、退職(定年を除く):15名、逝去:2名、その他:35名

## 日本神経科学学会会員構成の推移(2016～2024)

年度 会員種別	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
基準日	2016/7/1	2017/7/1	2018/7/1	2019/7/1	2020/7/1	2021/7/1	2022/7/1	2023/12/1	2024/10/1	2025/10/1
正会員	4,895	4,764	4,448	4,379	4,321	4,241	4,115	3,988	3,912	3,803
海外正会員			151	303	411	495	443	474	514	575
若手会員	166	191	237	240	222	207	315	537	675	716
海外若手会員			15	24	26	29	37	101	162	187
学生会員	734	871	831	759	738	692	777	724	707	819
海外学生会員			73	45	53	18	51	100	138	220
シニア会員	26	62	80	103	104	109	127	134	141	154
准会員	313	375	265	120	0	0	0	0	0	0
賛助会員(1) 複数口(10万円)	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
賛助会員(2) 10万円	7	8	10	9	7	6	6	10	10	12
名誉会員	22	22	21	19	18	18	19	18	19	20
<b>全会員数</b>	<b>6,165</b>	<b>6,295</b>	<b>6,132</b>	<b>6,002</b>	<b>5,901</b>	<b>5,816</b>	<b>5,891</b>	<b>6,087</b>	<b>6,279</b>	<b>6,507</b>